

# 有朋

「有朋自遠方来」



有朋会会報第 43 号  
令和 6 年 8 月 1 日

過ぎ行くときの中で また 新しい旅立ちを!!



会長退任に  
あたって!

有朋会前会長  
山田 直行

私は2016（平成28）年から伝統ある有朋会の役員を仰せつかり2019（令和元）年より5年間、会長を務めさせていただきました。

この間、コロナ感染拡大等で、多くの行事や総会、地区会等が中止となり、とても残念でした。

昨年、4年ぶりの総会・講演・懇親会が開催され、久しぶりに同期の朋と歓談することができ、やはり同窓会は楽しいものだという思いが沸きあがりました。

私に関わった8年間で強く心に残っていることは、

- ① 2018年の有朋会130年記念誌「創造と継承」の編集刊行に携わったこと。
- ② 2020年11月の「有朋の碑」の改修落成式の開催。
- ③ 2023年の有朋会135年記念誌「続・創造と継承」～あしたへ絆ぐ～の刊行をした時のこと。この記念誌は、コロナ禍の閉塞感を打ち破るべく企画でしたが、全国各地からあつという間に150編を超える原稿が寄せられ、山口編集委員長のアイデア豊かな編纂のおかげで、素敵な記念誌の刊行となり、皆様に楽しんでいただくことができました。
- ④ そして、昨年で130回目を迎え、明治26年から、一度も中止されたことのない、有朋会の最も素晴らしい伝統を誇る、願正寺での「追悼会」の開催、等々が思い起こされます。その間、常に支えて頂いた竹下敬教前事務局長の力添えも大きく、感謝しています。

私は、令和6年度からは、佐賀大学同窓会（通称、全学同窓会という。）の会長として、全学同窓会のお手伝いをしていくことになりました。

今後は、山口新会長を中心に、さらに一致団結して、ますます楽しさ溢れる、充実した会に発展していかれるようにと祈念いたしております。また、時には呼んでいただければ嬉しいです。これまで通り宜しくご厚誼賜れば幸いです。

有朋会万歳!

バトンを  
つないで!

有朋会新会長  
山口 久美子



「志を成し遂げるには、それを実現する挑戦と努力が必要…」壇上に立ち挨拶される兒玉学長の声が、しんと静まり返った広い場内の隅々に沁み通っていく。シートを敷かれた床一杯に、黒一色に埋め尽くされた1,724名もの新入生の顔、顔、顔。2階席、3階席に居並ぶ保護者の皆様の笑顔の数々。総勢3,000名を迎えての入学式。

「この新しいSAGAアリーナで、佐賀が誇る佐賀大学の入学式を挑戦してみたかった…」と受けて立たれた山口佐賀県知事の祝辞の重み。地域の期待を一身に背負って、ここに令和6年度の佐賀大学の歩みがスタートしたことを改めて実感させられた気がしました。

明治21年佐賀師範学校時に124名の有志で発足した私たちの有朋会も今年度で136年目を迎えた。バンカラと称され、黒マントに学帽を被り、高下駄の音も高らかに地域の憧れの目線の中を闊歩されていた旧制佐校のあの時代から、数々の歴史を紐といてきた。山口知事は、挑戦にはストレスがつきものとおっしゃっていたが、たまたまTVのインタビューを受けられていたバスケット女子日本代表の高田真希さんが「チャレンジは、自分の成長のきっかけとなった…」と発言されているのを聞いた。同窓会といえども、まだまだ老いてはられないということか…。

本年度、山田前会長の全学同窓会への移行に伴い思わぬ突然の成り行きで有朋会のお世話を任されることになり、とまどっている自分を少々持て余している。

コロナ禍を越えて、何かが始まる予感を感じさせられる令和6年度。みんなで切磋琢磨しあって、地域の、社会の、佐賀大学の応援団として佐賀大学の卒業生であることに誇りを持ち、同窓会の楽しい親睦に寄与し、大学のますますの発展に貢献できるよう、新たな旅立ちへ向けて、共に努力し合ってまいりましょう!

力足らずで恐縮ですが、どうぞお力添えのほど、よろしくお願い申し上げます。

# 会員の皆様より



## 子どもが輝ける場をつくるために

R 6年 学校教育課程卒 岡田実久

私は、すべての子どもが自らのよさに気づき、可能性を広げ、そして安心して学校生活を送ることができるような指導や支援を行うことができる教員になりたいと考えています。この目指す教師像の実現に向けて、より知識や指導力を身に付けたいと考え、佐賀大学大学院学校教育学研究科に進学することを決めました。この進路を選択したきっかけは、小学校・中学校・特別支援学校での教育実習において、想像以上に支援が必要な子どもが多く在籍していることや、子どもの実態把握と強みを生かした手立てを考える大切さを実感したからです。

これから2年間、多様なニーズを抱える子どもた

ちへの指導・支援の仕方について理論と実践の往還の中で学びを深めていきたいと考えています。

また、幼い頃から続けているピアノにも熱心に取り組んでいきたいと思っています。大学4年間では、専門教科として音楽を選択し、実技指導をしていただく中で、コンクールにも挑戦しました。作曲者や時代背景によって表現技法が異なり苦勞したこともありましたが、自身の演奏に変化を感じ、音楽の魅力に改めて気付くことができました。将来は、大学院での学びを生かしながら、音楽の得意不得意に関わらず、「表現することが楽しい」と感じてもらえるような授業をしたいです。



## 歴史を伝える人になる

R 6年 学芸員養成課程卒 古庄亜由美

私は佐賀大学を卒業後、長崎県平戸市にある松浦史料博物館で勤務しています。博物館で働く選択をした理由には、私の根本である「歴史を伝える人になる」という目標があったからです。その手段を広げるため、教員だけでなく博物館職員にも注目し、大学では学芸員養成課程を修了、同資格を取得しました。博物館について学ぶ中で、多くの博物館を訪れる機会があり、そこで学校教育との相違点を見つけることができました。それは一つの歴史的事象を

「より深く、別視点から伝えることができる」ということでした。立場や見方を変えれば歴史の捉え方が変化することに気づき、自らの力で歴史を評価し、生かしていく力をつけてほしい。その願いを実現させるため博物館で働くという選択をしました。

勤務開始から1ヶ月弱が経ちますが、日々悪戦苦闘しています。博物館運営のための事務的な業務だけではなく、展示品や平戸についての知識も深めなければなりません。また就職を機に環境や人間関係が一変し、心躍らせながらも郷愁にふける時もあります。そんな自分の未熟さを痛感しながらも、これまでの学習や職場の方々、友人や家族の支えに助けられています。社会人1年目でしか味わえない多様な感情を丸ごと受け止めながらこれからの糧にしていきたいと思っています。「明日誇れる自分になるために今日を生きる。」これからもこの思いを胸に励んでいきたいと思っています。



## わが家の ホップ ステップ キャンプ!



H 3年 小学校課程卒 県庁支部 槇 俊 二

初任校の先輩に渓流釣りに誘われて、宮崎県の鹿川溪谷に行きました。そこでテント泊をしたのが、私の初めてのキャンプ体験でした。溪谷の美しさや満天の星、ランタンに照らされたテントサイトで飲むお酒。ヤマメは、一匹も釣ることはできませんでした。非日常感あふれる体験が私の琴線に触れました。それから、時間を見つけては、キャンプ用品店に通うようになりました。キャンプ用品は、携帯性、機能性に優れ、見ているだけでわくわくするような道具がいっぱいでした。キャンプに行く日を思い描きながら、少しずつ道具を買いそろえていきました。

家族でキャンプデビューしたのは、下の娘が3歳になったときでした。それ以来、わが家の家族旅行と言えばキャンプになりました。忙しくて予定が立

たない中、急に時間ができたときに行くことができるキャンプは、わが家にとって都合がよかったことも長年続いてきた理由かもしれません。年数回のペースではありますが、20数年通い続けているお気に入りのキャンプ場もできました。最近は、二人で行くことが多くなりましたが、孫が3歳になったら、一緒に行きたいなと思っています。そうなれば、「テントも大きくしたほうがいいよね、ポタ電もいるよね。」なんてことを連れ合いにつぶやく今日この頃です。



## 私の好きなこと

R 4年 学校教育課程卒 佐賀市東部支部 岡 田 晃 季



私の好きなこと、それは「アカペラ」だ。みなさんは、ハモネプという番組を見たことがあるだろうか。ネプチューンというお笑い芸人が司会をしていて、大学生5、6人ぐらいの人がいろいろなパートに分かれて歌唱している番組だ。私は小学生のころから、その番組に夢中で家族一同で見っていた。大学生のきらきらした青春の様子とネプチューンの絶妙な掛け合いに魅了されていたのである。

そんな小学生だった私が大学生となり、ふとサークル紹介冊子を読んでいるとあんなにも憧れたアカペラサークルがその大学にあったのである。私は感激して、すぐにサークル体験会に行った。その時に生で聞いたアカペラの演奏は今でも覚えている。音の重なり、楽しそうに歌う姿、全てが感動的だった。そして、私はアカペラサークルへの入部を決めたのである。実際に自分がアカペラを始めるとまた新たな魅力に気付いた。アカペラの練習では「サビは盛り上がるように大きな声で歌いたい。」という意見

を出したり、「ダンスを取り入れながら歌うと見栄えがいいのではないか」といった意見を出し合ったりしながら練習が進んでいく。演奏をより良いものにしていくためにチームで熱い意見を交わし合う時間が私はとても好きだったし、アカペラの練習の中でも魅力を感じることができた。私は大学の4年間で、「アカペラ」という最高の活動に出会うことができた。そして、晴れて大学を卒業し、今は小学校の先生をしている。そんな私が今考えていることは、何とかこの「アカペラ」という素敵な活動を教育に還元できないかということだ。学べる要素はたくさんあると思う。同じグループの人に歌い方を聞いて、自分の歌唱につなげたり、話し合いの中で自分の意見を言うことの大切さも学んだりすることができる。これからの長い教員人生で、自分の色を出しながら自分にしかできない学級づくりをできるように頑張っていきたい。



## 貯蓄から投資への大号令

S62年 小学校課程社会科選修卒 三養基支部 坂 井 満

令和6年1月から、新NISAが開始されました。マスコミ等の報道では、「さあ、あなたも投資家の仲間入り」という、風潮がみられます。

日本においては、長い間「貯蓄と儉約」が美德とされてきました。そして、バブル経済の狂乱とバブル崩壊、失われた30年を経て、再び華々しい投資への誘いが行われています。

さて、みなさん。ここで立ち止まって、考えてみましょう。古くはNTT株の売り出し、あるいはバブル期の土地の高騰、「資産形成のために、マンションを買いませんか？」の営業電話。我々は様々な投資や投機の変遷をみてきました。「貯蓄」に関してもしかり。バブル期の定期預金などの利息は7%前後でした。今からは想像もできません。その時代は

確かに「貯蓄は美德」だった。でも、その時代の住宅ローンは、その利息を上回っていました。

「貯蓄」と「投資」、切っても切れない人生の経済的な問題だと思います。年金額も引き下げられ、政府はiDeCo（個人型確定拠出年金）やNISAを奨励しています。他にも、FXやビットコインなど、耳慣れない金融商品があります。一般の方々は、「どれがどれなのか分からない。分からないことが分からない。」状況だと思います。今までの自分の金融リテラシーを振り返りつつ、金融に関する知識と技能を高めながら、目の前の海原を泳ぐしかないのかもしれないかもしれません。

自己学習の時代です。「騙されないように、自分で学び、頑張りましょう。」



## 立神岩—大切にしたい唐津の海—

H元年 小学校課程卒 唐津支部 丹 野 到

「立神岩（たてがみいわ）」は、唐津市湊にある奇岩。高さ30メートルほどの巨大な玄武岩の柱で、玄界灘の荒波に負けじと寄り添うように立っていることから、別名「夫婦岩」とも呼ばれている。幼少時に湊で育った私は、この立神岩が遊び場だった。

私の家から近いこともあって、二つの巨岩の傍らにある岩塊（子どもでも登れるくらいの緩やかな斜面）に登って、てっぺんの岩に一人腰かけてボーッと海を眺めることが多かった。特に、夕暮れに七ツ釜（唐津市屋形石）近くに沈む夕日を見るのが大好きだった。その夕日の美しさは、今も目に焼き付いて離れない。残念ながら、近年、立神岩の周辺は、崩落の危険性のために立ち入りが制限されてしまい、あの場所からの美しい夕日を眺められなくなって久しい。

唐津の海は、それぞれの季節で違った表情を見せ

る。温かな日差しが降りそそぎ、生物を生き生きとさせる春の海。燦燦と照りつける太陽の下で、生きる力を与えてくれる夏の海。真っ赤に燃えた夕日が静かに沈んでいく、安らぎを与えてくれる秋の海。そして、神の怒りかと思えるような、私たちに生きる厳しさを教えてくれる冬の海。唐津の海は、いろんなことを私たちに教えてくれる。

私は、ふと、疲れたときは海を眺めに行きたくなる。私たちの心の中には、どこかしら「ふるさと」と思える場所がある。そのふるさとの風景をそのままの形で後世に残したいものである。



## SAGA2024に向けて

H28年 教育学研究科修 県立・私立支部

園 田 勇 樹



私は2022年より知的障害者ソフトボール佐賀県代表チームに携わっている。そこでは、今年佐賀県で行われる「全障スポ」で優勝することを目指し、チーム一丸となって取り組んでいる。所属している選手は、佐賀県内各地から集まって練習をしているため、全員で集まることが容易ではなく、全体練習の機会も限られている。そのような状況の中で、チームは昨年、鹿児島県で行われた特別全国障害者スポーツ大会において、準優勝という成績を残した。全国大会に初めて出場できたことや県外のチームと試合をできたことは選手一人ひとりにとって大きな財産になった。

当初、選手たちは、試合の経験が少なく自信が持てないことが多かった。そのため大事な場面でのミスがよく見られた。このような状況を改善すべく選手と話し合い練習の機会を増やしたり、練習の内容を工夫したりした。多くの方々のサポートもあり、

練習試合の機会も多く設けることができた。経験値が積み上げられたことで、選手一人ひとりの自信につながり、今回の結果に結びついたと思う。

いよいよ今年2024年は地元佐賀県での「国スポ・全障スポ」が行われる。本番に向け、これまで以上に選手たちが輝けるようにサポートをしていきたい。そして、スポーツの持つ力を多くの人に感じてほしい、お世話になった方々へ結果で恩返しができるような素晴らしい大会にしたい。



## 教職三十年に想う

H6年 小学校課程卒 佐賀市北部支部

野 上 美 香



小学校教諭になってからちょうど三十年。五十を過ぎたここ二年、新たな世界にチャレンジすることが続いています。

昨年度は初の特別支援学級担任をしました。これまで元気いっぱいの子どもたちの集団と格闘する日々でしたが、最近ではこれまでの自分の指導が今の子どもたちにしっくりはまらないもどかしさも感じていました。そのような中で特別支援学級担任をしたことは、個々の児童とじっくり向き合い、丁寧に関わり合い…といった教育の基本に立ち返り自分の指導法や教育観を見直す機会となりました。

今年度は異動し、児童生徒支援教員という立場で、川上小で人権教育を担当しながら、級外教員をする一方で、週二日は県教育センターにある佐賀県人権・同和教育

事務局で、市や県の人権・同和教育に関わる業務をしています。級外教員として俯瞰した立場で学校全体を見たり、いろいろな学級を支援したりする中で、自分も長年級外の先生方に支えられきたのだと今更ながら気付かされています。また佐同教事務局では、他校の先生方と協働する中で、これまでの自分になかった視点や気付きをいただく新たな学びの連続です。

教師生活三十年の節目におけるこのような新たな経験と新たな出会いは、今後の自分の教師生活に深みを与えてくれるかもしれないと思う今日この頃です。





## 3つの笑顔で

H 2年 小学校課程卒 武雄支部 樋 渡 正

私は、西川登小学校の校長をしています。校内に子どもたちの「笑顔」を増やしたいという思いで、学校目標に「3つの笑顔で」を掲げています。

「3つの笑顔で」とは、①「笑顔」であいさつや返事、②勉強が分かったとき、できたときの「笑顔」、③友達と一緒に楽しく過ごすときの「笑顔」です。「笑顔」はコミュニケーションを円滑にするために必要なものです。また、達成感を味わったときや自己有用感が高まったときに出てくる「笑顔」は次への意欲につながります。

学校では、子どもたちがいろいろな場面でたくさんの「笑顔」を見せてくれます。「笑顔」が増えると学校が明るくなります。

これからも、子どもたちの「笑顔」があふれるような学校づくりに励んでいきたいと思っています。



## 「ひっきゃ」で創る新しい学校

S60年 小学校課程卒 白石支部 武 富 通



わが町白石町は、現在学校教育の大きな転換期を迎えている。町内中学校3校、小学校8校が順次再編統合される。まず令和6年度4月に新白石中学校が開校し、私の母校である福富中学校は、3月を持って77年の歴史に幕を閉じた。寂しい限りである。

私は、定年退職し、昨年4月より町学校教育課「新しい学校づくり」係指導主事として勤務。まさに町の一大事業である小中学校再編統合に携わることとなった。

新しい学校開校に向けては、やるべきことは数多くある。校名、校訓、校歌、制服等の検討、校舎改修、文書・備品の整理、通学支援に係るバス運行、P T A



の再編、コミュニティスクールの見直しなどなど。細かい部分も上げれば、書ききれないほどである。先生方がゆとりを持って笑顔で教育活動にあたるためには、働き方改革からの視点も欠かせない。

新設学校準備にかかる業務の合間に町内小学校での授業もさせてもらっている。町内8小学校の6年生をつないだオンライン授業や体育でアルティメットの実践ができ、子どもたちの笑顔でたくさんのエネルギーをもらうことができた。

題名の「ひっきゃで」とは、「みんなで」という意味で、白石町教育委員会が合言葉としているものである。責任の重さとやりがいを感じながら、保護者、地域の思いや願いをしっかりと受け止め、子どもが主役の学校を「ひっきゃで」創っていく過程は、実におもしろい。

# 支部便り

## 小城・多久支部

小城・多久支部は、小城市内の小学校7校、中学校3校、小中一貫校1校と多久市内の義務教育学校3校の計14校で構成され、現職会員116名と退職会員で構成されています。

多久市内の3校は、義務教育学校として7年が経過し、様々な特長のある教育活動が展開されています。「多久の雀は論語をさえずる」とまで言われるほど3校ともに論語が盛んで、論語検定も行われています。毎年11月23日には、市内外から参加者を募って、「多久市論語カルタ大会」が開催されています。また、多久聖廟の春・秋の積菜では、「腰鼓」や「積菜の舞」(写真)を披露しています。

本支部は、昨年度までのコロナ禍の影響を受け、なかなか本来の活動まで戻すことができていない状況にあります。次年度こそは支部の活動が再開され、会員相互のつながりが深まることを祈念しています。

(小城・多久支部長 大島 和子)



多久聖廟「積菜の舞」の様子

## 県庁支部

県庁支部の会員は、教育総務課、教育DX推進グループ、教育振興課、特別支援教育室、教職員課、学校教育課、人権・同和教育室、保健体育課、スポーツ課などそれぞれの部署で担当業務に励んでおります。県庁周辺は、「くすかぜ広場・ARKS」や「佐賀県立図書館ころごしの森」、「佐賀城公園」などの整備が進められ、休日などには各種イベントが開催されるなど、多くの人が集う場になっています。

今年1月に「佐賀県教育大綱」が策定され、冒頭には「自分で自分のことを決められる子どもに育てたい」と目指す子ども像が示されました。県教育委員会事務局でも、「ほめるから、はじめる。はじまる。」を合言葉に、自分で考え、判断し、行動する、チャレンジする骨太でたくましい子どもの育成を目指して、様々な取り組みを進めています。

社会の急激な変化に伴い、教育改革もこれまでにないスピードで進められています。私たち県庁支部も、教育行政という立場から現場のニーズを把握し、教育の専門性の面から、どのような施策や事業が望ましいか否かを考えながら、これからも、各学校や子どもたちのために精一杯頑張っていきたいと思えます。

(県庁支部長 榎 俊二)



くすかぜ広場・ARKS

## 江北支部



白石平野

この写真は、大町町の聖岳付近から白石平野を写したものです。

雄大な白石平野の間を六角川が大きく蛇行しています。山と川に囲まれた大地で、江北町と大町町の子ども達は元気に過ごしているのです。「田舎やっけんなんもなか」という声が聞こえてきそうですが、ここに立つと二つの町の子ども達はこの土地で着実に成長していることが実感できます。

江北支部は、大町ひじり学園と江北小学校、江北中学校の3校です。一町一校の利点を生かし、行政と常に情報交換をしながら教育活動を行っています。

新型コロナウイルス感染症の流行以降まだ支部会を開催できずにいますが、老若男女が集い2町の子ども達について楽しく語りたいものです。

(江北支部長 川野 仁司)

# 本部から

## ◆ 就職支援 ～次世代とつなぐ取り組み～

令和6年3月22日、佐賀文化会館にて佐賀大学生1,386人の卒業式が行われました。さらに、4月2日にはSAGAサンライズパークの多目的アリーナにて入学式があり、新たに1,724人の入学生を迎えました。毎年、佐賀大学の後輩たちが、母校佐賀大学で将来の職業に向けて真剣に学び、卒業と共に日本国内をはじめ海外へ羽ばたき、自分の専門性を生かし社会貢献をしていきます。

そのような中で、有朋会（同窓会）では次世代を担う後輩たちの夢実現に向けての就職支援を2001年から現在まで実施してきました。多くの先輩会員の先生方が、学部を問わず後輩学生の就職試験に向けて、個別の論文作成や面接指導などを実施しています。就職支援事業には、年間のべ220人ほどが参加し、有朋会と佐賀大学生への応援団として、次世代とつなぐ取り組みとして力を注いでいます。

## ◆ 令和5年度「有朋会」からの就職支援の実際

\* 就職支援事業では、有朋会員の先生方5名がのべ142コマ（1コマ45分）実施。

\* 指導期間は令和5年4月24日～8月10日まで、指導内容は、前半の4・5月は、受験ガイダンス、自己PRの書き方、論作文指導などを行い、後半の7・8月は、面接、模擬授業、論作文（添削）を中心に実施しました。

参加者の学部

	教育	芸術	農学	理工	経済	合計
全体（延べ）	73	4	0	6	2	85
個別	112	5	2	2	0	121
添削	15	0	0	0	0	15
	200	9	2	8	2	221

受講者の感想

\* 2日間にわたって無料で講座をしていただき、ありがとうございました。残り2ヶ月、気を抜かずに勉強を頑張るって必ず合格したいと思います。（教育学部4年）



全体指導



個別指導

## 《令和6年度 有朋会支部長の皆様のご紹介》

※お問い合わせやお知らせがあれば支部長さんまでご連絡ください。

支部名	支部長名	連絡先	電話番号
福岡支部	鶴 久生	福岡県糸島市高田5-22-13-105	092-324-6645
県庁支部	楨 俊二	佐賀県教育庁学校教育課内	0952-25-7048
鳥栖・基山支部	古賀 泰伸	鳥栖市立鳥栖小学校内	0942-83-2535
三養基支部	高柳 元	みやき町立三根西小学校内	0942-96-3040
神埼支部	貞包 典子	神埼市立西郷小学校内	0952-52-3215
佐賀市東部支部	諸永 成樹	佐賀市立循誘小学校内	0952-22-4436
佐賀市西部支部	大石 文枝	佐賀市立西与賀小学校内	0952-23-6300
佐賀市北部支部	七條 康聡	佐賀市立三瀬校小学部内	0952-56-2004
小城・多久支部	吉田 聖	小城市立小城中学校内	0952-73-2191
唐津支部	渡辺 謙	唐津市立大良小学校内	0955-72-8085
伊万里・西松浦支部	松本 繁	伊万里市立伊万里小学校内	0955-23-4128
武雄支部	白濱 勝	武雄市立山内東小学校内	0954-45-3565
江北支部	川野 仁司	江北町立江北小学校内	0952-86-2251
白石支部	與賀田 忠倫	白石町立有明南小学校内	0954-65-4169
鹿島・嬉野・藤津支部	川原 俊彦	嬉野市立塩田小学校内	0954-66-2057
県立・私立支部	河野 健治	佐賀県立金立特別支援学校内	0952-98-1135
関西支部	猿渡 千歳	大阪市旭区太子橋3-4-3	06-6953-9014

## 令和6年度

# 「有朋の集い（総会）」・講演・懇親会のご案内

期日：令和6年8月24日（土） 14：00～18：00（受付13：30）

会場：佐嘉神社記念館（3F 高砂の間、相生の間）

内容：第Ⅰ部 有朋会 総会（14：00～14：30）

第Ⅱ部 講演（14：40～15：30）

演題 「佐賀県の偉人～田澤義鋪と中野万亀～」

講師 田澤義鋪記念館 館長 永池 守 氏

第Ⅲ部 懇親会（15：45～17：45）

◆もう、すでにハガキでご案内が届いていることと思います。ご出席をお待ちしています。

※担当実行委員は、平成3年3月卒業生（学籍番号87P）の皆さんです。

※懇親会の会費は、¥4,000円です。

※参加申し込みは、7月22日（月）までになっておりますが、締切後のご参加については、直接事務局へお問い合わせください。

## 令和5年度 135年記念「有朋の集い（総会）」 報告

\*令和5年10月7日（土）14：00～18：00

\*佐嘉神社記念館

\*内容 第Ⅰ部 総会

参加者約60名

第Ⅱ部 記念講演

演題「下村湖人と葉隠」

講師 下村湖人生家 館長 島 英 彰 氏

第Ⅲ部 懇親会

【講話概要】「下村湖人と葉隠」

・下村湖人（千代田町出身）の思想的な根底は「仏教の慈悲をもって武士と儒教倫理を貫いて形成した東洋的道義観」であり、講演では、武士道の書「葉隠」について詳細な説明があった。特に、著書『次郎物語』は作者の自伝的要素を含み、主人公の性格や思想の発展や人間的成長を描いていく中で「葉隠」が大きく影響している。

・主人公次郎の「葉隠の四誓願（慈悲など）」との出会いや、次郎物語のテーマ「愛」「運命」「永遠」の中にも、下村湖人の内にある葉隠の精神を知ることができる。



（86Pの皆さんによる受付の様子）



（会長の挨拶）



（懇親会の様子）



（講演の様子）

## 令和5年度 追悼会報告



追悼会の会場準備の様子

お参りをされる遺族の皆様  
と支部長の皆様



\*日時：令和5年11月19日（日）10：00～11：20

\*会場：願正寺

\*追悼会は、明治26年に始まって以来、130回目を迎えました。先輩に敬意を表し会員の心の拠り所を確かめるために行われてきました。

\*当日は、物故された本会員お一人お一人のご功績や人柄にも触れることができました。なお、ご遺族の方、ご来賓、本部・支部の役員など合わせて約50名の参列を得て、厳粛に執り行うことができました。

## 令和6年度 有朋会本部・支部行事計画

月	日	曜	本 部 行 事	備 考
4	1	月	教職員定期異動による名簿更新	※各支部で会員把握
	2	火	佐賀大学入学式、大学院オリエンテーション	SAGAアリーナ
	4	木	学部オリエンテーション	
	15	月	※教員採用支援（全体：支援ガイダンス 他）	教育1号館 104教室
	17	水	※教員採用支援（全体：論文の指導 他）	教養教育 2301教室
	20	土	第1回正副会長会13:00～	菱の実会館小会議室
	20	土	第1回本部役員会15:00～	菱の実会館多目的室
	22	月	会報43号原稿集約（3月22日支部原稿締切）	
5	8	水	※教員採用支援（個別：論文・自己PR）～5月24日	菱の実会館（13日間）
	8	水	第2回正副会長会18:00～	菱の実会館和室
	15	水	第1回編集会議【会報43号】	会報部会
	25	土	代議員会15:00～	菱の実会館多目的室
	29	水	第2回編集会議【会報43号】	会報部会
6	1	土	全学同窓会熊本支部総会	熊本
	3	月	会報発送者名簿確認	※サラトに確認
	14	金	令和6年度「有朋の集い(総会)」・懇親会の案内	※サラトに原稿送付、依頼
	17	月	県内現職会員数調査締切（学校→各支部）	※各学校ごとの名簿集約
7	1	月	各部会実施予備日	
	1	月	物故者の確認依頼	会員調査締切：退職含
	10	水	※教員採用支援（面接・論文・模擬授業）～7月19日	菱の実会館（14日間）
8	1	木	第3回正副会長会18:00～	菱の実会館和室
	24	土	会報43号発行、発送開始（各会員へ） 令和6年度「有朋の集い(総会)」14:00～18:00	※サラトに確認 佐嘉神社記念館
9	30	月	本年度追悼対象者報告第1次締切	
	30	月	会費納入締切	会費納入締切（振込）
10	1	火	追悼会案内の発送（御遺族様宛）	本部事務局
	2	水	学部との意見交換会18:30～	菱の実会館多目的室
	9	水	第4回正副会長会18:00～	菱の実会館和室
	9	水	本年度追悼対象者報告 最終締切	本部事務局
	19	土	第2回本部役員会15:00～	菱の実会館多目的室
	26	土	佐大ホームカミングデー	対象：卒業生の全て
11	9	土	佐賀大学同窓会フェス（新規）11:00～16:00	佐賀駅前交流広場
	16	土	佐賀県青春寮歌祭13:00～	エスプラッツホール
	16	土	願正寺との打合せおよび前日準備	本部事務局
	17	日	追悼会（願正寺）10:00～11:30	参加依頼（各支部3名程度）
	20	水	第3回編集会議【会報44号】	会報部会
12	4	水	第5回正副会長会18:00～	菱の実会館和室
2	5	水	第6回正副会長会18:00～	菱の実会館和室
3	25	火	佐賀大学卒業式10:00～・祝賀会12:30～	教育学部 学校教育学研究科
	31	月	有朋会監査10:00～	菱の実会館

## 令和6年度 有朋会（佐賀大学教育学部・文化教育学部）役員一覧

	役 職	氏 名	卒業年 課 程
1	会 長	山口久美子	S41.小
2	副 会 長	江島きよ子	S52.小
3	〃	緒方 俊昭	S52.美
4	〃	黒木 正孝	S53.小
5	〃	椎島陽一郎	S56.中
6	〃	坂本 康晴	S63.中
7	〃	田中 裕子	S61.小
8	幹事（大学）	徳安 和博	H02.美
9	〃	堤 公一	H06.小, H08.院
10	〃	小松美和子	H10.総文, H13.院
11	〃	林 裕子	H14.学
12	〃	鳥谷さやか	H20.美, H22.院
13	幹事（退職）	岡 陽子	S54.中
14	〃	砂後 典之	S59.小, H08.院

	役 職	氏 名	卒業年 課 程
15	幹事（現職）	江島 静佳	H元. 小
16	〃	中村 尚志	H03.小
17	〃	三宅 敏宏	H07.総文
18	〃	小石 克	H08.総文
19	幹事（本庄小）	本村 一浩	S63.小
20	幹事（城西中）	家永 裕行	H03.小, H13.院
21	幹事（附属小）	重松 景二	H02.小
22	幹事（附属中）	砂山 涼子	H11.美
23	幹事（附属特）	蒲地 誠	H09.美
24	監 査	徳永まゆみ	S56.小
25	〃	池田 典穂	S60.中
26	事務局長	高松 京子	S55.小
☆	顧 問	山田 直行	S47.美

## 令和5年度決算報告・令和6年度予算

### 【歳入の部】

費目	令和5年度 執行額	備 考	令和6年度 予算額	備 考
会 費	4,441,660	2,000円×2,240名 手数料137,419円 9,300円返金	4,500,000	2,000円×2,250名
準 会 員 費	1,067,000	入学時10年会費 11,000円×97名	1,100,000	入学時10年会費 11,000円×100名
繰 越 金	1,235,599	令和4年度繰越金	1,218,885	令和5年度繰越金
利 息	20,018	利息等、全学同窓会芸地デ同窓会より総会祝儀	10	利息等
合 計	<b>6,764,277</b>		<b>6,818,895</b>	

### 【歳出の部】

費目	令和5年度 執行額	備 考	令和6年度 予算額	備 考	
事業費	総会 追悼会費	628,097	祝詞、総会・祝賀会補助等	700,000	祝詞、総会・祝賀会補助等
	お施餓鬼費	30,769	御仏前＋供花	35,000	御仏前＋供花
	慶弔慰問費	235,000	弔慰金、現金書留含む	300,000	弔慰金、現金書留含む
	会員名簿費	0	各支部名簿作成と配布	20,000	各支部名簿作成と配布
	会 報 費	407,300	有朋42号発行	500,000	有朋43号発行
	支部助成金	200,000	10,000円×17支部、総会・講演等補助	300,000	10,000円×17支部、総会・講演等補助
	渉 外 費	100,000	会長活動費、渉外活動費	100,000	会長活動費、渉外活動費
	新入会員歓迎費	0	卒業記念品（祝詞）150名分	50,000	卒業記念品（祝詞）150名分
	支援活動費	222,700	就職支援講師謝礼等	300,000	就職支援講師謝礼等
	新規事業	0		50,000	
小 計	<b>1,823,866</b>		<b>2,355,000</b>		
会議費	支部長合同会議費	112,800	支部役員、代議員の招聘促進	100,000	支部役員、代議員の招聘促進
	役員会費	188,812	正副会、本部役員会、編集委員会等	180,000	正副会長会、本部役員会等
	監 査 費	10,000	監査費	10,000	監査費
	諸 費	94,070	全学地区会、各種祝儀等	200,000	全学地区会、各種祝儀等
	旅 費	74,640	全学同窓会旅費と支部総会等旅費	200,000	全学同窓会旅費と支部総会等旅費
	学部事務打合せ費	50,250	8月と1月開催	100,000	8月と1月開催
	小 計	<b>530,572</b>		<b>790,000</b>	
需用費	備 品 費	3,650	職員録等	5,000	職員録等
	消 耗 品 費	16,495	事務用品等	100,000	事務用品等（角2封筒代含む）
	通 信 費	119,749	通信費（郵送料等）	150,000	通信費（郵送料等）
	振り込み手数料	5,460		10,000	
	印 刷 費	85,600	事務局印刷費（コピー）	100,000	事務局印刷費（コピー）
	小 計	<b>230,954</b>		<b>365,000</b>	
事務局活動費	1,380,000	11万円×10月 通勤手当5,000円×12月	1,380,000	11万円×12月 通勤手当5,000円×12月	
小 計	<b>1,380,000</b>		<b>1,380,000</b>		
10年会費備蓄	485,000	5,000円×教育97名	500,000	5,000円×教育100名	
退職記念積立	70,000		70,000		
有朋会基金積立	1,000,000	有朋会基金積立（令和2年度より）	1,000,000	有朋会基金積立（令和2年度より）	
予 備 費	25,000	名簿、文書等断裁処分料	358,895		
合 計	<b>5,545,392</b>		<b>6,818,895</b>		
令和5年度残高	1,218,885				

### 令和5年度学部との意見交換会

①令和5年8月2日（水）②令和6年1月10日（水）18：00（菱の実会館）  
\* 教育学部、芸術地域デザイン学部、有朋会、芸術地域デザイン学部同窓会から17名参加



両学部代表の先生方や就職担当者の出席を得て、大学に求められる人材育成や現在の就職状況、また、今後の学生支援の在り方などについて、学部や同窓会の取り組みを共有し、意見交換を行った。

### 平成24年～令和5年までの会費納入者

令和6年3月31日現在

会費納入者数（人）	増減	備 考	
平成24年度	3,161	-87	
平成25年度	2,823	-338	
平成26年度	2,831	8	
平成27年度	3,028	197	
平成28年度	2,819	-209	
平成29年度	2,663	-156	
平成30年度	2,756	93	文教4年次卒業
令和元年度	3,010	254	130年記念誌発行
令和2年度	2,516	-494	会費2,000円
令和3年度	2,461	-55	会費2,000円
令和4年度	2,342	-119	会費2,000円
令和5年度	2,240	-102	会費2,000円

# 本部便り

- ◆現在、有朋会会員は約1万6千余名です。その大半は、佐賀県内に在住しておられます。有朋会本部では、有朋会の基礎資料として、年度毎の会員数を調査してきました。ご報告いただいた会員数に基づいて「有朋会」の活動報告や行事案内、記念誌などをお送りしています。お知り合いの同窓の方で本部からの連絡が届いていない方がいらしたら、ぜひ本部までご連絡ください。
- ◆会費納入については、平成17年5月7日の代議員会において77歳以上の会員からも会費を徴収する規約改正がなされています。また、師範学校卒業の先輩は特別会員となり会費をいただきません。会報配布や行事案内などは、正会員と全く同じです。なお、卒業後6年未満の会員（入学時10年会費納入者）は、本部会費の納入は不要です。
- ◆会員について：現職会員⇒各学校（県庁支部）に採用され勤務している方、一般会員⇒現職会員以外の卒業生の方、退職会員に含まれます。  
：退職会員⇒退職された会員、一般会員、再任用会員、講師会員。再任用の先生も講師の先生も現在学校に勤務されているとは思いますが、一旦退職された先生方は、退職会員とするように共通理解をしたいと思います。退職会員は支部で取りまとめて徴収する取り決めがなければ振込用紙で会費を本部へ納入することになります。

## 追悼会

- 期日** 令和6年11月17日（日）
- 会場** 願正寺 佐賀市呉服元町6-5  
TEL：0952-23-4001
- 日程**
- 役員打ち合わせ：9：00～
  - 受付：9：30～
  - 追悼会：10：00～11：20

※明治24年有朋会員による「総集会」が発足。明治26年当時の全会員128名の浄財で願正寺の一隅に石碑を建立。全会員参加による追悼会が開催されて以来、本会最大の年行事として継承されてきました。

## 第13回佐賀大学ホームカミングデーの開催

- 期日** 令和6年10月26日（土）13：00～16：30
- 場所** 佐賀大学本庄キャンパス
- 内容** 大学の近況報告、講演、在校生によるアトラクション等  
詳しくは、佐賀大学校友会のホームページ（URL <https://koyukai.admin.saga-u.ac.jp/>）の「お知らせ」をご覧ください。
- 申し込み・連絡先** 佐賀大学校友会事務局 TEL:0952-28-8390  
E-Mail:kouyukai@mail.admin.saga-u.ac.jp

## 第32回佐賀県青春寮歌祭の開催

- 期日** 令和6年11月16日（土）13：00～17：00
- 場所** 佐賀市交流センター「エスプラッツホール」
- 内容** 青春寮歌祭は、旧制高校・大学の卒業生らが校歌・寮歌を声高らかに歌い上げるもので、佐賀大学からは毎年「楠の葉の」や「巻頭言」などを披露しています。参加をお待ちしています。
- 申し込み・連絡先** 佐賀大学同窓会事務局  
TEL:0952-23-1253 FAX:0952-25-5700  
E-Mail:dousoukai@sadai.jp

## 会費納入のお願い

- ※会費納入は、下記の要領をお願いします。
- 令和2年度から本部年会費は、2,000円です。
- 特別会員（師範学校卒業）の方は、会費免除です。

- 【1】佐賀県内の学校勤務の会員は？**  
本部年会費と支部費を学校単位で徴収し、支部事務局へ納入ください。  
支部費は、それぞれの支部で違います。（支部からの連絡あり）
- 【2】佐賀県内の学校勤務以外の会員及び退職会員は？**  
別添振込用紙で、本部年会費を郵便局口座に納入ください。  
支部費は、それぞれの支部で違います。（支部からの連絡あり）
- 【3】佐賀県外の会員は？**  
別添振込用紙で、本部年会費を郵便局口座に納入ください。
- 【4】卒業後6年経過の会員は？〈入学時10年会費納入者〉**  
卒業後6年経過の会員は、別添振込用紙で、本部年会費を郵便局口座に納入ください。  
佐賀県内在住者は、上記【1】又は【2】又は【3】の方法で納入ください。
- 【5】別添振込用紙で納入される場合は？**  
「ゆうちょ銀行」や「郵便局ATM」で。  
・口座番号 0-1730-8-35826  
・加入者名 「有朋会」  
・振込取扱票は「赤」の用紙をお使いください。  
・できるだけ早期に納入ください。

有朋会本部年会費の値上げにも関わらず、多くの会員の皆様から会費納入をいただき誠にありがとうございました。今年度もご協力のほどよろしくをお願いします。

The image shows two forms side-by-side. The left form is a 'Red Remittance Slip' (振込取扱票) for 'Sagami University Alumni Association' (佐賀大学 有朋会). It includes fields for account number (017308-35826), amount (2000 yen), and recipient information. The right form is a 'Request for Receipt of Remittance' (振替払込請求書受領証) for the same organization, with fields for name, address, and contact information.

有朋 第43号	発行日 令和6年8月1日(木)	住所 〒840-8502 佐賀市本庄町本庄1
	発行者 有朋会会長 山口久美子	佐賀大学菱の実会館 TEL 0952-23-1253
	編集者 編集部 長 江島きよ子	E-mail dousoukai@sadai.jp
	事務局 事務局 長 高松京子	HP <a href="http://sadai.jp/alumni/">http://sadai.jp/alumni/</a>